

平成 29 年度 第 3 回泉区地域福祉保健推進協議会 会議録

日 時 平成 30 年 1 月 23 日（火曜日）午後 2 時 30 分から 4 時 05 分まで

会 場 泉区役所 4 階 4AB 会議室

出 席 計 43 名

内 容

開会あいさつ

議題 1 平成 29 年度の第 3 期泉区地域福祉保健計画の取組について

(1) 取組について（福祉保健課事業企画担当）

今年度、「連携やつながり」という視点で各地区や関係機関・団体が取り組んでいるものを一部紹介した。

(2) 各グループで意見交換および各グループより発表

<意見交換の内容について>

ア 各地区・関係機関・団体が主に取り組んだこと *キーワード：連携やつながり

イ 各テーマに沿って取り組んだこと、今後取り組みたいこと

1G 「居場所・お助け活動」、2G 「障害」、3G 「子ども」、4G 「移送」

(3) 意見交換内容について、コメント（村井委員）

● 1G について

・保健活動推進員や食生活等改善推進員が、前回の意見交換がきっかけとなり取り組んでいることやこれまでの種まきが花開いて活躍されていることがわかった。

・ちょうどいい頼み方、頼まれ方がある。頼んだり頼まれたりする関係になることが大切。場所と機会それを活かすきっかけづくりは必ずセットで行う。

・つながりの機会が生まれたら、つながり続けるフォローアップが必要。意図的に、意識的に、場や機会を設けてそのあともつなげる。さらに活性化させる戦略として、それぞれパンフレットを持って行って渡すなど、お互いを知ることでも大事である。

● 2G について

・いこいの家が、現在も活動の中心としてコーディネート場となり、情報の拠点でもある

ことは素晴らしい。こうしたものが他にもあればと思う。

・上飯田団地地区のサロンは、雨が降っても開催するという継続性を大事にしていることも大変素晴らしいが、利用している方々から企画があがり、企画にも入り始めているのがすごいことである。忘年会も当事者を巻き込んで開催したということで、受け手であり、担い手でもあるというサロンの土壌ができています。

・お互いさまの関係があると、参加者から企画が出てくる。

● 3G について

・テーマをきちんと設定して、協働してやっていくこと。

・(村井委員自身の地元での取組の実感として)、親支援を保育園や地域とともに課題解決するため、定期的集まり話し合っている。安心できる駆け込み寺になれるよう、子育てはおせっかいが必要。ちょっとおせっかいを作ってきたきっかけづくりとして、地域に引っ張り出していく。

● 4G について

・移送に関しては、車はあっても担い手がなかなかいないというコーディネートの難しさがある。なんらかの形で、できるところから始めていく。移送は全国的な課題でもある。

・逗子市では、出張サービスや配達の一覧表を年1～2回配布している。散髪などのサービスが自宅にくる。既存のサービスで利用できるもの以外の狭間を救っていく、仕分けていくことが必要。

・活動の場と機会を活かしながら、さらに意識を高めて大事にしていくことが大切である。

議題2 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた泉区行動指針(案)について

(高齢・障害支援課 地域包括ケア推進担当)

泉区行動指針(案)について、主に地域活動支援と地域協議会での意見などについて説明を行った。

【情報提供】(福祉保健課事業企画担当)

1 担い手発掘に向けた啓発リーフレットについて、説明

・このリーフレットは、地域活動の担い手の発掘に向けて、住民の地域活動への関心を高めるきっかけになるようお願い、作成したもの。作成にあたっては、活動団体の皆様にもインタビューさせていただき、生の声を掲載している。

・配布先は、区役所・各地域ケアプラザ・区社協の他に、生活衛生協議会や食品衛生協会の皆様にもご協力いただき、そば屋・寿司屋などにも置かせていただく予定。

・少しでも、多くの方々に手にとっていただきたいので、周知のご協力をお願いしたい。

2 平成 29 年度第 3 期泉区地域福祉保健計画推進イベントについて、説明

・第 3 期泉区地域福祉保健計画推進イベント（平成 30 年 2 月 20 日～22 日開催）

テーマ「地域活動のススメ～はじめの一步～」

パネル展示や各ブースで、地域の様々な活動や取組をご紹介します。

・講演会（平成 30 年 3 月 8 日開催）

テーマ「道草したっていいじゃない 人生のゆるやかな歩き方」

第 1 部 「サロンふれんど」の活動紹介（上飯田地区）

第 2 部 澤岡詩乃さんによる講演

（公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員）

閉会あいさつ